

---

## 事務局より

---

### ① 能楽師 野村四郎師、名誉会員に

表記の通り、観世流能楽師で日本能楽会会長の野村四郎師が本学会名誉会員をお引き受けくださりました。野村先生は特集で取り上げた新作能『ロミオとジュリエット』初演でシテのロミオを演じておられます。今後は学会についても大所高所よりご意見をいただけますようお願い申し上げます。

### ② 2016 年秋大会は 11 月 13 日（日）名古屋で開催

本年度の秋大会は、川田副会長のご尽力により 11 月 13 日（日）に名古屋で開催することになりました。早速、発表者を募集しております。詳しい情報は学会ホームページに載せていきますのでよろしくお願い致します。皆さまのご参加をお待ちしております。

### ③ 会計委員の増員

会計委員はこれまで事務局長代行の安田氏がひとりで担当しておりましたが、本年度より一名増員し、実行委員の大山季代子氏にもご協力いただくことになりました。よろしくお願いいたします。

### ④ 上田会長が『伊豆新聞』に記事連載

上田（宗片）邦義会長が 2 月から 7 月まで、『伊豆新聞』と『熱海新聞』のコラム「伊豆路」にエッセイ記事をご寄稿されています。毎月第一または第二日曜の掲載とのこと。記事は新聞社ホームページからも閲覧できます。『伊豆新聞』ホームページの検索欄で「上田邦義」などのキーワードを入れて検索すると当該記事のリストが出ますので、クリックしてお読みください。（下記はこれまでの寄稿タイトル、右ページは 4 月 10 日記事の紙面イメージ）

2 月 14 日「熱海と温海温泉」

3 月 13 日「台湾の北投温泉」

4 月 10 日「シェークスピア没後 400 年」

5 月 8 日「永井氏から学んだこと」

川奈店 0567-45-5234

### 伊豆路

4月23日は英国の劇作家シェークスピアの誕生日で命日である。  
生年が1564年、没年が1616年でまとめて「ピトゴロシ、ロイロ、ヨミツシ」と覚えろ。英語の語彙(じ)を二巻たぐさん使った作家と言われるが、描いた人物の多様さに瞳目(こま)もくさせられる。

しかもそれぞれの人物がそこに生きていくかのどく恐ろしいほど生き生きと描いて見せた。そしてそうした人物を、神ともなれば獣ともなる人間として描いた。

年末にいたぐカレンターの中にいろいろ先賢の言葉が書かれていて、「勝つことを悔まず、負けることを怒らぬ」という。相手を頷いやる人趣味にあふれている。

身近な例で、野獣のピッチャーが強打者を三振に打ち取ったとき雄たけびを上げる。これと美しいと鼻るか醜いと鼻るか。どちらかに分かれると思うが、両方の心が分かったら、

シェークスピア没後400年

上田 邦義



イクスピアに一步近づいていく。彼を「百万の心を持つ」と評した批評家がいいた。

この大らかさ・包容力が彼の人間観で宗教観とも言えるかもしれない。それが彼の初期から晩年に至る作品に見られる「許し」(forgiveness)という言葉に表れていると思う。

20世紀末には、21世紀は世界は一つ「共生」の明るい期待が世界中に見られた。それが米国の同時多発テロに対する「戦争」対応によって今日の状況を招いてしまった。

今年シェークスピア没後400年で、世界各地でいろいろ催しがある。あろうが、どんな解釈や評価が見られるか。わが国でも徳川家康没後400年。シェークスピア詩劇は日本語訳不可能と書いた夏目漱石が亡くなって100年である。以上、私が60年近くシェークスピアを研究してのいわば悟りである。

(熱海市、静岡大名学教授、)

『伊豆新聞』、『熱海新聞』2016年4月10日「伊豆路」記事

(※新聞社ホームページにも同記事が掲載されています。)

(URL: <http://izu-np.co.jp/feature/news/20160410iz2003000001000c.html>)

### ⑤ 秋山正幸先生の新著紹介

日本大学元常務理事で本学会顧問の秋山正幸先生の最新著をご紹介します。

『彼らが若かった頃』という題で、副題に「姉と弟の物語」とあって著者の自伝的小説です。図書新聞発行、2015年5月15日。本体1,500円+税。帯に曰く「著者は86歳！生き続けることは書き続けることである。書き続けることによって人生を問い、輝かせ続ける高齢者文学の星が放つ書き下ろし最新作」とあります。(ISBN-13 : 9784886114693)

以上、事務局から案内しました。(事務局 菊地善太)